

国立沖縄青少年交流の家所長の就任に当たって

第17代所長 大瀨 善 秀 (おおはま よしひで)

このたび2020年(令和2年)4月に、国立沖縄青少年交流の家 所長に就任いたしました。設立48年目に当たり、50周年目の節目に向けて以下に留意しつつ所の運営に尽力する所存です。

1. 当所設立の再認識 (平和社会の担い手育成・沖縄県のナショナルセンター)

- ・国立沖縄青少年交流の家(以下、「当所」という。)は、1972年(昭和47年)に沖縄の本土復帰を記念して、那覇市の西方約32km、慶良間諸島最大の渡嘉敷島に、当時の文部省直轄の「国立沖縄青年の家」として設置され、現在、独立行政法人国立青少年教育振興機構の1施設「国立沖縄青少年交流の家」として運営しています。日本の最南端で離島に位置する国立の青少年教育施設であります。
- ・渡嘉敷島は、去った太平洋戦争において米軍が日本に初めて上陸し地上戦が行われ住民の「集団自決」という悲惨な歴史を有します。戦後の冷戦時代に米軍のミサイル基地が建設され、基地閉鎖後の跡地利用として、「これからの平和な社会を築いていく青少年の教育施設」を設置してほしいとの村民の願いにより当所は設立されました。
- ・また、設立当初から、当所は沖縄県立の6青少年教育施設とも連携しており、「沖縄地区青少年教育施設連絡協議会」の監事・事務局を担い、また、「沖縄県体験の風をおこそう運動推進協議会」の事務局として県内の青少年教育及び体験活動を支援しています。

これら当所の設立の経緯を踏まえ、渡嘉敷村と連携を密にして、運命共同体の心構えで地域に貢献いたします。また、沖縄県の青少年教育及び体験活動を推進するためナショナルセンターとしてリードしフォローするとともに、体験活動等のプログラムの向上に努め、県内への普及に努めます。

2. 利用者への対応 (丁寧な説明、清潔安全な環境、活動の安全管理)

- ・当所の所在する渡嘉敷島は、「ケラマブルー」と呼ばれる透明度の高い青い海と白い砂浜、多くの種類のサンゴ礁が発達した世界屈指の美しい自然に恵まれ、慶良間諸島国立公園に指定されております。
- ・当所は、この島の素晴らしいロケーションや約23万㎡の広大なフィールドの中で、本格的な「マリンスポーツ体験」、サンゴ等を活用した「環境学習」及び集団自決の悲惨な歴史を踏まえた「平和学習」等、様々な自然体験活動、交流体験活動、集団宿泊活動のプログラムを提供しています。また、開所以来海の事故は無く、質の高い海洋監視体制を維持しています。

当所利用者に対しては、受入れに当たって船舶及び島内での移動等様々な情報を含め丁寧な説明を行い、利用者が安心して来所できるよう努めます。入所後の利用者の生活については、宿泊施設及び研修施設等の環境美化並びにライフラインの安全確保に心がけ清潔で安全な環境を提供します。また、利用者の活動については、活動目的に沿ったプログラムの提供や気象等自然の状況に応じたプログラム変更等の助言を行い、利用者の活動目的が達成できるよう支援いたします。さらに、スノーケリング等海洋研修における海洋監視や野外炊飯における火の管理等諸活動の安全管理に万全を尽くします。

3. 施設利用の向上 (広報の多様化及び活動の推進)

- ・当所の施設利用の状況は以下のとおりであります。

(1) 利用者数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
宿泊利用者数	41,026 人	37,379 人	36,725 人	31,842 人
日帰り利用者数	33,037 人	35,196 人	34,634 人	32,195 人
総利用者数	74,063 人	72,575 人	71,359 人	64,037 人

(2) 県内・県外利用者数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
県内利用者数	53,922 人	53,472 人	52,256 人	51,900 人
県外利用者数	20,141 人	19,103 人	19,103 人	12,137 人
県外比率	27.2%	26.3%	26.8%	19.0%

上記利用状況をみると、利用者が7万人台から6万人台に減少し県外比率も減少しています。これらの状況を踏まえ、利用者増に向け取組む必要があります。当所は離島に所在することから、船舶での入所となり、台風等海上時化による船舶欠航で利用がキャンセルとなる場合が多い。しかしながら、都市から隔絶された離島の環境や国立公園の美しい自然の中での体験活動は、他の施設では味わえない素晴らしい魅力があります。

ついては、来所したことのない利用者に動画等で当所の魅力を伝える等いろいろな広報の手段を活用し、これらを用いて新規利用者の開拓を行う等、広報活動を推進し利用者の増加に取り組めます。

4. 職場環境の改善（職場の円い雰囲気）

- ・当所は、プロパー職員、人事交流職員及び非常勤職員の20人弱の少人数で運営しています。この人数で約23万㎡の広大な敷地及び建物を維持管理し、約7万人の利用者の受入・支援・安全管理を担い、主催事業の企画・実施並びに地域への貢献活動を実施しています。

20人弱の小さな組織で沖縄県のナショナルセンターの機能を担うことから、職員一人一人のパフォーマンスが求められ、他の職員との連携が大変重要であります。プロパー職員は、離島特有の自然環境等を熟知した施設整備の指導、ライフラインの確保及び地域との連携に所の運営の要として機能してほしい。人事交流職員は、人事交流期間内で派遣元の職場との連携や新たな職務を身につけ全国的なネットワークを構築してほしい。非常勤職員も所運営の一翼を担う立場にあるとの心構えで他の職員をフォローしてほしい。職員一人一人とのコミュニケーションを大切にし、職員が意見を出しあえる円い雰囲気の職場を構築し、職員と相談しながら所運営の舵を取ります。

5. その他（新型コロナウイルス感染症への対応）

- ・当所は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国的な緊急事態宣言や沖縄県独自の緊急事態宣言を受け、4月、5月及び8月は施設利用を停止いたしました。

施設利用再開に当たり、通常の場合の「利用の手引き」のほか、「新型コロナウイルス感染症に対応した利用の手引き」を作成し、入所前、所内の生活や活動、食事や入浴等における注意点をわかりやすく説明し、利用者が安心して施設利用ができるよう対応いたします。また、コロナ後に向けて、キャンセル団体の利用促進の広報活動を実施します。